

スタチンにより糖尿病リスクが 46%上昇

これまでの研究においても脂質異常症治療薬のスタチンと糖尿病リスク上昇との関連が示唆されているが、それらはスタチンの心疾患予防における役割についての研究で得られた知見であった。そこで本研究では、スタチン服用による糖尿病リスクに焦点をあてたコホート研究を実施し、スタチンと糖尿病発症の関連について検討した。

糖尿病のない男性 8,749 例（45～73 歳）を対象に 5.9 年間追跡した。試験開始時にスタチンを服用していたのは 2,142 例であった。分析の結果、スタチン服用者は非服用者に比べ、2 型糖尿病リスクが 46%高かった（調整後ハザード比 1.46）。スタチンの種類の解析では、シンバスタチンとアトルバスタチンの服用が 2 型糖尿病リスクと有意に関連し、用量依存性が認められた。また、スタチン服用者では非服用者に比べ、インスリン感受性が 24%、インスリン分泌が 12%低下していた。

今回の結果から、スタチン治療を受けていた人では、受けていなかった人に比べて 2 型糖尿病を発症するリスクが 46%上昇することが示され、これにはインスリン感受性やインスリン分泌の低下が影響していることが示唆された。

出典：Diabetologia. Published online Mar 10, 2015